

# 中国延辺朝鮮語の 「形容詞+나다 (nada)」に関する一考察\*

중국연변조선어의 “형용사+나다” 에 관한 일고찰

松岡雄太  
마쓰오카 유타

본 논문에서는 중국조선어에만 확인되는 “형용사+나다” 구문의 의미와 사용조건에 대해서 그것과 뜻이 비슷한 “형용사+지다” 와 대조하면서 고찰하였다. “형용사+지다” 와 “형용사+나다” 는 어떤 상태의 변화를 나타난다는 점에서 공통되는데 전자는 상태 변화를 단순한 사실로 객관적으로 묘사하는 것에 비해, 후자는 그 상태 변화의 원인(요인)이 된 사건을 받아서 그 사건이 일어난 동일한 장면(특히 그 직후)에서 그 상태 변화에 관여한 사람의 입장에 서면서 그 변화에 대한 감정을 내면으로부터 주관적으로 묘사한다는 의미 차이가 있다. 따라서 상태 변화에 있어 “형용사+지다” 는 무표형이며, “형용사+나다” 는 거기에다가 양태성의 의미를 더한 유표형이라고 결론지을 수 있을 것이다.

キーワード:

中国延辺朝鮮語(중국연변조선어)、補助動詞(보조동사)、나다、形容詞(형용사)、모달리티(양태)

## 1. 問題提起

現代朝鮮語には(1)に示すような、動詞の“連用形(아/어)”に動詞“나다”(出る)をつけることで表される形が存在する<sup>1)</sup>。

- (1) 깨다-깨어나다, 놀다-놀아나다, 늙다-늙어나다, 돈다-돈아나다, 밀리다-밀려나다, 배다-배어나다, 번지다-번져나다, 벗다-벗어나다, 불다-불어나다, 뿔다-뿔어나다, 비추다-비추나다, 살다-살아나다, 일다-일어나다, 생기다-생겨나다, 자라다-자라나다, 재다-재어나다, 쫓기다-쫓겨나다, 풀리다-풀려나다, 피다-피어나다, 흐르다-흘러나다  
など

これらの“나다”は従来、補助動詞ないしは複合動詞として記述されてきたが<sup>2)</sup>、中国領内に暮らす朝鮮族が使用する朝鮮語には、これに加えてさらに形容詞の連用形に“나다”をつけた形(以下、「形容詞+나다」と表記)も存在する。大韓民国の朝鮮語(標準韓国語)には存在しない<sup>3)</sup>この「形容詞+나다」形については、辞書の“나다”の項目の一部で記述が見られる。

(2) 油谷ほか(2018: 333-334)の記述

나다<sup>2</sup> [nada] **補動** ① [나서] ①<動詞の連用形について> その動詞を繰り返して経験することを表す. | 멋대로 놀아 ~ 気ままに遊び歩く / 하도 여러번 봐 나서 이제는 안 보고도 환하다. あまり何度も見てきたので今は見なくてもすっかり分かる.

②<動詞の連用形について> その動作の進行・状態を強調する. | 뻗어 ~ 力強く伸びる / 백화가 피어 ~ 百花が咲き誇る

③<動詞の連用形について> どの動作の完了を表す: …し終える. | 읽어 ~ 読み終える

④<動詞の語幹+ -고 나다の形で> その動作の完了を表す: …してしまう, …し終える. | 숙제를 하고 나서 놀러 가거라. 宿題をやり終えてから遊びに行きなさい / 밥을 먹고 나니 배가 부르군. ご飯を食べたのに腹がいっぱいだ.

⑤<中国で><形容詞の連用形について> 状態の変化を表す: …(く)なる. | 가슴이 터지듯이 아파납니다. 胸が張り裂けんばかりに痛みます / 나는 눈앞이 아찔해났다. 私は目の前がくらくらとなった. ➡ 지다<sup>6</sup>

(2)の①~③は「動詞の連用形+나다」、④は「動詞語幹+接続語尾-고+나다」に関する記述なのでここでは除外するとして、⑤が「形容詞+나다」に関する記述である。油谷ほか(2018)は「形容詞+나다」を「状態の変化」を表す、日本語の「…(く)なる」に相当する形と記述している。この点、中国で出版された辞書の“나다”の項目を見ても、似たような記述を確認できる。

(3) 중국조선어학회 [편] (2017: 207)の記述

나다 [동] (자) I … (略) …

II ①(일부 동사의 ‘-아, -어, -여’ 형 다음에 쓰이어) 그 동사가 뜻하는 동작을 여러번 겪거나 치르다. | 겪어~. 읽어~.

②(일부 동사의 ‘-아, -어, -여’ 형 다음에 쓰이어) 그 동사가 뜻하는 동작의 진행을 힘주어 이름을 나타낸다. | 피어~. 깨어~.

③(일부 형용사의 ‘-아, -어, -여’ 형 다음에 쓰이어) 그 형용사가 뜻하는 상태가 일정한 정도에 이르게 되다. | 그리워~. 부러워~.

④(동사의 ‘고’ 형 다음에 쓰이어) 그 동사가 뜻하는 동작이 끝남을 나타낸다. | 소주를 마시고 나니 머리가 멍하였다.

だが、油谷ほか (2018) が項目の最後で、“지다”を見よ、と指示しているように、(2)や(3)で記述される形容詞を動詞化して表す「状態の変化」は、大韓民国の朝鮮語では、通常、形容詞の“連用形(아/어)”に“지다”をつけた形(以下、「形容詞+지다」と表記)で表される。そしてこの「形容詞+지다」が中国の朝鮮語に存在しないのかと言えば、次章で後述するように「形容詞+나다」よりもむしろ一般的に用いられる。ここにおいて中国朝鮮語の「形容詞+지다」と「形容詞+나다」は一体何が違うのかという疑問が生ずる。しかし従来、この点に着目した研究は多くないようで、管見の限り、中国朝鮮語における分析的で慣用的な文法表現を集めた刘沛霖・刘凤琴 (2011) に若干の言及が見られる程度である。

(4) 刘沛霖・刘凤琴 (2011: 495) の記述

【-아/어/여 나다】 < 3 >

结构：联结词尾“-아/어/여”与辅助动词“나다”组合

用法：用于形容词后

涵义：表示呈现某种状况，相当于汉语的“…了起来”、“…起来了”的意思

例句：

- ① 스팀이 오자 방안이 더워 났다.
- ② 뜻밖의 일이라 그는 급해 나서 어쩔 줄 몰랐다.
- ③ 마음이 급해 난 동철이는 더 동생과 이야기하고 있을 겨를이 없었다.
- ④ 아군의 습격을 받자 적군은 바빠 나서 부랴부랴 도망쳤다.
- ⑤ 그는 친구들이 그리워 나면 흔히 친구들의 이름을 종이에 써 보는 습관이 있었다.

刘沛霖・刘凤琴 (2011) によると、「形容詞+나다」の意味は、中国語の「…了起来/…起来了」(状態の変化)に相当する。一方で、刘沛霖・刘凤琴 (2011) は「形容詞+지다」を(5)のように記述している。

(5) 刘沛霖・刘凤琴 (2011: 513) の記述

【-아/어/여 지다】 < 1 >

结构：联结词尾“-아/어/여”与“지다”组合(不分写)。

用法：用于形容词后

涵义：表示变化或形成的过程，相当于汉语的“日益/日趋…”、“日渐/日见…”、“…起来”、“逐渐…”的意思

例句：

- ① 공부 성적이 날로 좋아지고 있다.
- ② 이 상점의 단골손님이 많아지고 있어요.

- ③ 고속발전의 후유증의 하나인 인플레이션이 날로 심해졌다.
- ④ 자동화 정도의 높아짐에 따라 인원이 줄어졌다.
- ⑤ 틈틈이 운동을 하고 보니 몸이 날씬해졌어요.

刘沛霖・刘凤琴 (2011) によると、「形容詞+지다」の意味は、中国語の「日益/日趨…、日漸/日見…、…起来、逐渐…」などに相当する。上記の「形容詞+나다」と違い、こちらには「日益/日趨…」(日一日と、日増しに)、「日漸/日見…」(日一日と、日ごとに、だんだんと)、「逐渐…」(だんだんと、次第に)といった意味もあるように読み取れるが、「形容詞+지다」の意味にも「…起来」があり、それが「形容詞+나다」の意味でもあるのだとしたら、結局のところ、「形容詞+지다」と「形容詞+나다」の意味・用法の違いは、いまだ明らかになっていない状態にあると言える。本稿ではこの両者の違いを明らかにすべく、主に「形容詞+나다」の意味・用法について考察することを目的とする。

## 2. テクストの用例分析

「形容詞+나다」の意味記述に先だって、本章では実際のテキストに現れるそれぞれの形式の使用頻度数について触れておきたい。非常にアナログなやりかたではあるが、中国の朝鮮族学校(小学校)の教科書<sup>4)</sup>を用い、手作業で「形容詞+지다」と「形容詞+나다」の用例を試験的に収集した結果が(6)の通りである。

(6) 「形容詞+지다」と「形容詞+나다」の用例数<sup>5)</sup>

「形容詞+지다」を取る形容詞の例	「形容詞+나다」を取る形容詞の例
가깝다(2), 가볍다(2), 거만하다, 거세다, 거칠다(2), 견고하다, 굳다, 굳세다, 깊다, 깨끗하다, 높다, 넓다, 느리다, 덥다, 둔하다, 따뜻하다, 따스하다, 동그랗다, 똑똑하다, 동그렇다, 많다, 명랑하다, 무겁다, 무디다, 무미건조하다, 무안하다, 빠르다(3), 바쁘다, <u>빨갳다</u> , 보도랍다, 부드럽다, 붉다, 사납다, 새빨갳다(2), 숙연하다, 쉽다, 슬프다, 시끄럽적하다, 시큰하다, 싫다, 아름답다, 아연하다, 약하다(2), 어둡다, 어렵다, 예리하다, 위중하다, 유명하다, 자옥하다, 작다, 잠잠하다, 적다, 짙다, 좋다(2), 지지분하다, 질다, 짧다, 창백하다, 총명하다, 친절하다, <u>깜깜하다</u> , 쾌활하다, 썩하다, 크다(2), 파랗다, 편리하다(2), 편하다, 풍요롭다, 튼튼하다, 하얗다, 행복하다(2), 험하다, 험악하다, 환하다, 훌쩍하다, 흐지부지하다, 희미하다	괴롭다(2), 굵하다(2), 긴장하다, 답답하다, 당황하다, 따끔하다, 멍하다, 뜨겁다(2), 멍하다, 무섭다, <u>빨갳다</u> , 뿌듯하다, 새그럽다, 새근새근하다, 시원하다, 심심하다, 아프다, 어쩔하다, 축축하다, <u>깜깜하다</u> , 후줄근하다, 흐뭇하다
77 語 / 88 例	22 語 / 25 例

まず、(6)から分かるのは、テキスト上において「形容詞+나다」よりも「形容詞+지다」のほうが、圧倒的に出現頻度が高いということである。「形容詞+나다」と「形容詞+지다」の意味に似通った点があるとして、もしも両者が意味的に対立する関係にあるとしたら、この事実は何を意味するのか。一般的な仮説として思い浮かべられるのは、「形容詞+지다」が無標形であり、かつ「形容詞+나다」が何らかの意味において有標形であるというものだろう。

次に、(6)を見る限り、前に来る形容詞の多くは重複しておらず、あたかも形容詞によって“지다”か“나다”のどちらか一方を取るように予め決まっているかのような印象を受ける。しかし、言語コンサルタント<sup>6)</sup>からの指摘によると、この点については必ずしもそうではないようで、上記のようにあたかも相補分布の様相を呈しているように見えるのは偶然である。わずかに“빨갳다”と“깜깜하다”の2語だけではあるが、実際に“지다”と“나다”の両方について用例も見つかっている((6)の四角囲い)。

では、この“빨갳다”と“깜깜하다”がそれぞれどのような文脈で、それぞれ“지다”ないしは“나다”を取って使われているのか。その用例は以下の(7)、(8)である。

(7) (a) ... 약이 오른 아이가 원승이를 놀래워보려고 큰소리를 쳤으나 그 놈은 더구나 갈기 갈기 찢는 것이었다.

원승이의 재미나는 연기를 보는 수부들의 웃음소리는 더욱 높아졌고 성난 아이의 얼굴은 빨개났다. 그 애는 웃옷을 벗어내치더니 돛대에 바라오르기 시작했다.

[5b: 147]<sup>7)</sup>

(b) “연신아, 이 비누 어디에서 샀어?”

연신이의 얼굴이 빨개졌습니다.

“너 이 녀석, 고물장사한테 자전거 주고 이 비누를 받았구나. ...” [5a: 23]

(8) (a) 혼란한 가운데서 한 젊은 아버지가 상처를 입은 안해를 안착시키고 일곱살에 나는 아들이 다니는 학교로 줄달음쳐갔습니다. 어제날 애들의 웃음꽃이 피어나던 아름답던 3층교사는 이미 폐허로 되어버렸습니다.

젊은 아버지는 눈앞이 깜깜해졌습니다. [4b: 79]

(b) 형님: 늦었구나! 프란쯔야, 어머니는 방금 숨을 거두셨다. ...자, 이리 오너라.

해설자: 프란쯔는 눈앞이 깜깜해졌습니다. 어머니, 어머니, 불러도 찾아도 대답이 없었습니다. [6b: 136]

(7)、(8)ともに、奇しくもそれぞれ“얼굴”、“눈앞”と、同じ主語を取っている例であり、どれもテキストの地の文(かたりのテキスト)<sup>8)</sup>に現れた例で、条件も同じである((8b)は戯曲なので実際は全文を声に出して読むことを想定しているのだろうが、該当箇所はナレーターによる語りなので地の文と同じ条件にあるものと見なせる)。実際の事実だけを見ると、(7a)、

(7b)は怒りか恥ずかしさかの違いはあるものの、ともに「顔が赤くなった」ということを、(8a)、(8b)はともに落胆して「目の前が真っ暗になった」ということを描写しているように見え、これらの用例を見る限り、「形容詞+지다」と「形容詞+나다」はどちらを使ってもさほど違いがなさそうに思われる。しかし、言語コンサルタントの直感によると、両者のあいだには微妙なニュアンスの違いがあり、「形容詞+지다」は状態の変化を客観的な事実として単に描写しているように感じるのに対して、「形容詞+나다」は、変化を内面から主観的に描写しているように感じるという。すなわち、「形容詞+지다」と「形容詞+나다」は、「客観：主観」、「外面：内面」といった意味の対立を持っている可能性がある。そのためか、テキスト中に現れる“지다”を“나다”に、あるいは“나다”を“지다”にいつでも置き換えが可能なわけではない。例えば、以下の(9)の“나다”は“지다”に置き換えても言えるが、(10)の“나다”は“지다”に置き換えると不自然であり、(11)の“지다”は“나다”に置き換えても言えるが、(12)の“지다”は“나다”に置き換えると不自然だという。

(9) 포수가 점점 더 가까이 뒤쫓아와서 이제는 말발굽소리까지 똑똑히 들려왔습니다. 급해  
난 (ok 급해진) 승냥이는 또 재촉하였습니다.

“선생님, 빨리 숨겨주십시오. 포수가 오면 전 끝장입니다.” [3b: 170]

(10) 적의 기관총은 더 세차게 불을 뿜었다. 동존서의 몸가까이에 떨어진 탄알은 폴짝폴짝  
흙먼지를 일구었다. 동존서는 폭파약을 꼭 껴안고 포복전진을 하다가도 때로는 몇미터  
씩 앞으로 덩굴군 하였다. 별안간 다리가 아파나기에 (?? 아파지기에) 손으로 만져보니  
피가 질벽하였다. 적의 기관총은 일제히 그를 향해 불을 토하였다. [5b: 170]

(11) “부탁?”

“그래. 돌이를 데리고 올수 있겠니?”

“자신은 없지만 한번 해볼게.”

“고마와. 넌 내 친구야”

포롱이는 친구란 말에 마음이 따뜻해졌습니다 (ok 따뜻해났습니다). [2b: 36]

(12) 오늘 오전, 카로나가 교실에 들어섰다. 낮색은 창백해지고 (?? 창백해나고) 두눈은 너무  
울어서 별경게 부어있었다. 그 애는 두다리를 휘정거렸는데 마치 중병을 앓고난 사람  
같이보였다. [6a: 19]

このように“지다”と“나다”のあいだに置き換えの可否があるという事実は、単語レベル、文レベルでは両者が同じような意味を表しているように見えてつても、テキストレベルでは両者に使い分けがあることを示唆する。

### 3. 「形容詞+나다」の意味と使用条件

#### 3.1. 意味

本節では、具体的に、言語コンサルタントが直感的に感じる「形容詞+지다」と「形容詞+나다」のテキストレベルにおける意味的な違いとは何か、すなわち、「形容詞+나다」を用いることによって母語話者が感じる「内面から主観的に変化を描写している感じ」とは一体どのようなものかについて考察する。まずは、次のような文脈を設定してみる。

[文脈] A君(男)とB君(男)はともに高校生で、同じクラスの友だちである。B君は同じクラスのCさん(女)のことが好きだが、B君はCさんにいまだ告白できずにいる。ある日、教室でA君とB君の二人がおしゃべりをしていたところへ、二人の存在に気づいたCさんが向こうから二人に向かってにこっと笑ってみせた。

(13) [A君はB君がCさんのことを好きだと知らない場合]

A: 너, 왜 얼굴이 {빨개졌니 / ??빨개났니}?

B: {안 빨개졌어 / ??안 빨개났어}.

(13)のA君の発話において“나다”を使うのは不自然であり、同時にB君の返事においても“나다”を使うのは不自然だという。ここでA君が“나다”を使えないのは、A君がB君の顔が赤くなった原因(理由)を知らないためだと考えられる。そのため、以下の(14)、(15)のように文脈の前提を少し変えると文法性の判断に差が現れる。

(14) [A君はB君がCさんのことを好きだと知っており、かつB君はA君がその事実を知っていると気づいていない場合]

A: 너 얼굴이 {빨개졌네 / 빨개났네}.

B: {안 빨개졌어 / ??안 빨개났어}.

(15) [A君はB君がCさんのことを好きだと知っており、かつB君はA君がその事実を知っていると分かっている場合]

A: 너 얼굴이 {빨개졌네 / 빨개났네}.

B: {안 빨개졌어 / 안 빨개났어}.

(14)、(15)のA君の発話では、“지다”も“나다”も可能であり、“나다”を使うとB君をからかっているような感じがするという。つまり、A君が状態変化に関わる動作主体(B君)と同じ知識状態であると“나다”が使えるようになるのである。一方で、訊かれて返事をするB

君も(14)の状況では、“나다”を使うと自分がCさんを好きだという事実を自らカミングアウトしているような感じになるため不自然であり、“지다”を使うのが普通だという。だが、(15)の状況になるとB君の返事は“나다”で答えるのが普通であり、“지다”を使うと、わざととぼけているような感じがするという。

このように「動作主体の立場や気持ちになる」とは、話者と動作主体の知識状態が関わっているものと思われるが、この知識状態も最終的には話者がどう捉えるか、話者の主観的な認識に基づいている。次の例を見てみよう。

(16) [トマトを自宅の庭で育てている。ある朝、庭に出てみると、昨日までまだ緑だったトマトが赤くなっているのに気がついた]

어? 토마토가 {빨개졌네 / 빨개났네}.

(16)の状況では通常、“지다”が用いられる。もしここで“나다”を使うと、例えば、まだ小さな子どもが、愛情を込めて種から育ててきたトマトをもはや友だちのように思っていて、実が赤くなるのを心待ちにしていた、そのトマトがついに赤くなったことを子どもが母親に教えてあげる場面、などを想起するという。だが、現実問題としてトマトの知識状態(気持ち)など分かるはずがない。ここにあるのは話者が自分とトマトを同一視しているかのような主観的な視点である。

以上の(13)~(16)は全て会話文であるが、これが書かれた文章の場合は、読者が物語中の登場人物の視点に立つ、ということになるだろう。上の(7a)、(8a)、(9)、(10)で「形容詞+나다」が現れている箇所は、それぞれ教科書の読み手(=小学生)が、“성난 아이”、“젊은 아버지”、“승냥이”、“동존서”の視点に立って自分と同一視しながら物語を読むという解釈が可能であるし、(11)の“지다”を“나다”に置き換えると読み手は“포롱이”の視点を得ることができる。

### 3.2. 使用条件

前節で見たように「形容詞+나다」の意味は、会話の場合は聞き手(相手)の視点に立って、物語の場合は、当該の状態変化に関わる登場人物の視点に立って、その変化に対する気持ちを主体に代わって主観的に内面から表出することにあると考える。その証拠に、以下の(17)の文脈で「形容詞+나다」を使うことは不自然である。

(17) [Aさんは今2歳になる息子を持ったお母さん。ある日、息子に服を着せようとしたところ、息子がいつの間にか大きくなっていて、ついこの間まで着られた服がもう入らない。そこで独り言]



아이구, 이 옷이 벌써 {작아졌나 / ??작아났나} ? 산지 얼마 안 되는데 ...

(17)で母親は「服が小さくなった」という変化を、服や子どもの気持ちになることも、その必要もないし、独り言なので他の人物の視点に立つこともない。このように何らかの状態変化を事実として単に描写するような場合で“나다”を使用すると不自然である。なお、上記の(16)も、単にトマトの色の変化を描写するだけならば、通常は“지다”が用いられ、“나다”の使用にはかなり特殊な文脈設定が必要だったのも同じ理由による。

「形容詞+나다」の使用には他にも条件がある。上述(12)における“지다”は“나다”に置き換えられなかったが、「形容詞+나다」を用いることで、「動作主体の立場や気持ちになって内面から主観的に変化を描写している感じ」を出せるのだとすれば、この(12)も“나다”を用いることで“카로나”の視点に立てそうに思われる。だが、それができないのはなぜか。この点について筆者は「形容詞+나다」が当該の状態変化を起こすに至った原因(要因)を同じ文脈場面の中に持っていなければならないためだと考えている。実際にここまで示してきた上記の(7a)、(8a)、(9)、(10)における「形容詞+나다」の例は、全てその直前(ないしは直後)にその状態変化を引き起こすに至った原因(要因)に対する言及がある。この点は“지다”を“나다”に置き換えられる(11)の例も、(13)~(15)の会話文の例も同様である。しかし、“지다”を“나다”に置き換えられない(12)のこの箇所は、実はこの物語の出だし部分であり、“카로나”の顔が青白くなった原因(要因)については何も述べられていないのである。以下の(18)の例もこのことを後押しする。何の文脈も与えられていない場合に“나다”を使うのは難しいことが分かる。

(18) [A君とB君は友だち。二人で大学の構内を散歩している。今は11月。二人は特に話題もなくしばらく黙って歩いていたが、A君が何の前触れもなく、天気のことを話題にする]

A : 날씨가 갑자기 {추워졌네 / ??추워났네}.

B : 그래.

そしてこの当該の状態変化を引き起こした原因(要因)となる先行文脈には「即時性」のようなものが求められる。つまり、何らかの出来事を受けて当該の状態変化が起り、その状態変化について言及、描写する場合、“나다”の使用は、書かれた物語であればその要因となる出来事の直後に、会話であれば同じ発話現場の直後に限られるのである。

(19) [A君とB君は同じクラスの友人で中学3年生。二人は中学2年生までは不真面目であまり勉強をしてこなかった。3年生になりこのままではまずいと思った二人は心を入れ替え

て、毎日勉強をするようになった。ある日、定期試験があり、後日その答案用紙が返却される。自分の答案用紙を見た A 君は自慢げに B 君に言う]

이봐, 나 공부 성적이 날로 {좋아지고 있어 / ?? 좋아나고 있어}.

(19)は(5)の①の例文に文脈を添えてアレンジしたものだが、“나다”が使えず、“지다”のみを許容する。(19)の状況は先行文脈もあり、「現場性」もある。A君の内的な感情を表出できる状況でもある。しかし、この場合、“나다”が言えないのはなぜか。筆者は「成績がよくなる」という状態変化が段階的に起こったものであるため、すなわち、“날로”(日ごとに)や“-고 있다”との共起が“나다”の使用の不自然さにつながっているのではないかと考える。このことは冒頭で紹介した刘沛霖・刘凤琴(2011: 513)が「形容詞+지다」の意味を「日益/日趨…」(日一日と、日増しに)、「日漸/日見…」(一日一日と、日ごとに、だんだんと)、「逐漸…」(だんだんと、次第に)とも記述し、同時にこの意味を「形容詞+나다」に認めていなかった事実とも一致する。

#### 4. 結論と今後の課題

以上、本稿では中国延迎朝鮮語に見られる「形容詞+나다」の意味・用法を「形容詞+지다」と対照しながら考察してきた。「形容詞+지다」が状態の変化を単に客観的な事実として描写するのに対して、「形容詞+나다」の意味は以下の(20)のように結論づけられる。

(20) 状態変化を引き起こすことになった原因(要因)を先行文脈として受け、それと同じ場面(直後)において、会話の場合は聞き手(相手)の視点に立ち、物語の場合はその状態変化に関わる登場人物(動作主体)の視点に立ち、その変化に対する主観的な感情を内面からわき出るように描写する

このようにモーダルな意味を持つ「形容詞+나다」を使うことで、会話の場合は話し手と聞き手はお互いの知識状態を察することができ、書かれた物語の場合は登場人物に共感しながら物語にのめり込むことができるといった機能を有するものと考えられる。(20)の意味記述によって、今回筆者が収集した用例(末尾の附録を参照)は少なくとも説明できる。なお、この「内面からわき出る感情」は“나다”が本来持っている語彙的な意味から派生したのと考えられる。さらに、(20)の意味記述からは、状態変化において「形容詞+지다」が無標形であるのに対して、「形容詞+나다」はそれに加えてモーダルな意味を持った有標形であり、両者が対立関係にあると言えるかもしれない。しかし、この点に関して、言語コンサルタントによると、例えば、“얼굴이 빨개나졌다”や“얼굴이 빨개져났다”のように「形容詞+나다」のあとに“지

다”を、逆に「形容詞+지다」のあとに“나다”をさらに重ねて使う用法もあるということなので、早急な結論は控えておく。

最後に、本稿の考察において残された今後の課題を2点挙げておく。1点目はテキストの種類である。本稿では朝鮮族学校（小学校）の教科書から収集した用例をもとに分析を行なったが、もし「形容詞+나다」の意味が(20)で正しいとすれば、そのようなモダリティを用いる必要のないテキスト、例えば、新聞やニュース、学術論文といったジャンルにおいては「形容詞+나다」が現れないことを予測する。教科書以外のテキストを対象にした研究は今後の課題としたい。

2点目は品詞を分けて記述することの妥当性である。本稿では「形容詞+나다」のみを研究対象としたが、冒頭に挙げた「動詞+나다」も合わせて一括して分析、体系化できる可能性もある。品詞に関して言えば、本稿で扱った「形容詞+지다」と「形容詞+나다」はともに形容詞を動詞化するわけであるが、本稿で扱っていない「形容詞+하다」も同じように形容詞を動詞化する。逆に、継続アスペクトを表す形式として記述されることの多い「動詞の고形+있다」や「動詞의아/어形（連用形）+있다」は意味的に見ると動詞を形容詞化していると言えなくもない。朝鮮語における品詞転換のしくみ全体を俯瞰的に見ながら、本稿で扱った「形容詞+나다」がどのように位置づけられるのか、この形式を持たない大韓民国の朝鮮語との体系的な違いは何なのか、といった点を明らかにするのは今後の課題である。

#### 注

\*本研究は「2023年度関西大学若手研究者育成経費」を受けて行なった研究課題「中国朝鮮族若年層の朝鮮語とその変容に関する研究」の成果の一部である。

1) 実際には“나타나다, 태어나다, 드러나다”のように、先行動詞が既に単独で用いられない語や“달아나다”のように先行動詞が現代語までに至る過程で語形変化している語もあるので、これらの例を含めて“나다”の意味・機能を考えようとする議論は複雑になる。動詞につく“나다”については別稿に譲る。

2) 朝鮮語における補助用言（動詞）の研究には膨大な先行研究があるが、これらを整理した유현경 외 (2023: 72, 140-142)を見るに、研究者によって“아/어 나다”を補助用言の一つに数える者と補助用言に含めない者がいることが分かる。この違いは専ら補助用言をどのように定義するかによる。なお、中国における研究の一つである최명식・김광수 (2000: 45)は“-고 나다”を補助動詞の一つとしてリストに挙げているが、そのリストに“-아/어 나다”は挙がっていない。また、동북3성《조선어문법》편찬소조 [편] (1983: 140-145)は“-아/어 나다”を補助動詞としてではなく、動詞派生の合成法の一つとして挙げている。だがいずれにせよ、そこに詳細な記述は見られない。

3) 김보향 (2020)によれば、標準韓国語の“-고 나다”に相当する形として、済州方言には“-아/어 나다”が存在し、この形は形容詞にも接続する。김보향 (2020: 130-131)はこの形容詞の連用形につく“나다”の意味を「過去の一定時点までの状態を表しつつ、現在はそうでないことを含意する」として「過去状態」と記述している。この意味記述が正しいとしたら、済州方言の「形容詞+나

다」の意味は、後述するように中国延辺朝鮮語のものとは異なる。

- 4) 延辺教育出版社朝鮮語文編集室・東北朝鮮文教材研究開発センター [編著] 『義務教育朝鮮族学校教科書朝鮮語文』(1学年から6学年、各学年上下2冊、2004年～2006年、延辺教育出版社刊)
- 5) 手作業による集計結果なので拾い漏れがある可能性はある。よってこの数字はあくまで目安に考えていただきたいが、漏れがあってもそれほど多くはないと思われるので、それなりの根拠にはなるだろう。
- 6) 言語コンサルタントのA氏は、1990年延吉市生まれの男性で、朝鮮語と中国語と日本語のほぼトリリンガルである。小学校ははじめ朝鮮族学校に通っていたが、途中から漢族学校に転校、小学校5年生のときに両親の仕事で来日し現在に至る。日本語は来日後に学ぶ。両親はともに朝鮮族であり、家庭内では専ら朝鮮語と中国語をミックスして会話するという。日本在住歴が長く、また朝鮮語の使用が家庭内に限られるという点において中国の延辺朝鮮族自治区に暮らす朝鮮族とは使用する言語感覚が異なる可能性も当然ありうるが、筆者が見る限り、同氏の使用する朝鮮語は中国延辺朝鮮語の言語的特徴を保持しており、本稿が対象とする「形容詞+지다」、「形容詞+나다」における文法性の判断に関しても確固たる直感を持ち合わせているように見受けられた。
- 7) [5b: 147] は教科書の出典、「5学年下巻 147頁」を意味する。aは上巻、bは下巻である。また、このような出典を示していない例は作例したものである。以下同様。
- 8) 工藤(1995: 19-21)によると、テキストには「①<言語の使用行為(発話行為)の場との関係>と、②<複数の文の間関係>という2つの側面が含まれている」。①は「人間の基本的言語活動(言語の実際的使用行為)」である「発話主体(1人称者)が相手(2人称者)に向かって話しかけること」であり、「わたしーあなた関係における発話行為の現存時への、アクチュアルな指向性によって成り立つもの」である。工藤は①を「<はなしあい>のテキスト」と呼んでいる。一方で、②は「人称的にも時間的にも、現実の発話行為の場へのアクチュアルな関係づけなしに、成り立っている」もので、工藤はこれを「<かたり>のテキスト」と呼んでいる。

#### 引用文献

- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』、東京：ひつじ書房
- 김보향(2020)「제주방언 보조용언 ‘-어나다’의 의미 기능에 관한 연구」『방언학』31: 117-138.
- 동북3성<조선어문법>편찬소조 [편] (1983)『조선어문법』, 연길: 연변인민출판사
- 刘沛霖·刘凤琴(2011)『韩国语惯用组合』, 北京: 商务印书馆
- 油谷幸利·門脇誠一·松尾勇·高島淑郎(2018)『小学館 韓日辞典』, 東京: 小学館
- 유현경 외(2023)『한국어 보조 용언 구성 연구』(한국 언어·문학·문화 총서 16), 과주: 보고서
- 중국조선어학회[편](2017)『조선말사전』, 沈阳: 료녕민족출판사
- 최명식·김광수(2000)『조선어문법』, 연길: 연변대학출판사

【附録】本文中で挙げていない残りの「形容詞+나다」の用例

( は動作主体 (文中にない場合は「私」)、          は使用の前提となる文脈)

- 어느날 그가 눈을 뜨고 보니 자신의 몸이 검고 더럽게 변해있었습니다. 이제는 늙은 물소마저도 와서 목욕하려고도 목을 적시려고 하지 않았습니다.

고인물은 몹시 괴로와났습니다. 그는 그제야 비로소 시내물의 권고를 떠올리고 후회하기 시작했지만 때는 이미 늦었습니다. [2a: 166]

- 그러던 어느날 선생님께서 나를 부르시더니 극의 해설문을 읽을 사람이 필요하니 나더러 해설원을 맡으라고 했다. 내가 맡았던 역을 다른 여자애가 대신하게 되자나의 마음은 몹시 괴로와났다.

그날 점심, 나는 잔뜩 풀이 죽어 터벅터벅 집으로 돌아왔다. [6a3]

- 토끼는 반가와하며 여우한테 인사를 올렸으나 여우는 못들은척하며 목에 뺏뺏이 힘을 주며 제 갈길만 가고있었습니다. 급해난 토끼는 여우를 쫓아가며 해석했습니다. [4b15]

- 드디어 공연날자가 돌아왔다. 공연이 시작되기전에 무대뒤에 선 나는 저우기 긴장해났다. [6a5]

- 그러나 그날부터 심봉사에게는 앞 못 보는 괴로움보다 더 큰 걱정이 엄습해왔다. 눈을 뜰 욕심에 생각없이 약속을 하였으니 그 많은 쌀을 어디서 가져올것인가? 공리를 하면 하수록 마음은 답답해났고 캄캄한 세상만큼이나 앞길이 막막하였다. [5a: 153]

- 내가 첫집의 초인종을 눌렀지만 문을 여는 사람이 없었다. 두번째 집, 세번째 집... 어느 집에도 사람이 없었다. 당황해난 나는 울음을 터뜨릴번했다. [5a: 49]

- 잔디밭을 지나다가 별이 나의 손과 다리를 쏘아 따끔해나더니 불에 덴것처럼 발갱게 부어올랐습니다. [1a: 49]

- “난 아무것도 받지 못했수다”

로인의 얼굴에는 서글픈 표정이 어려있었습니다.

시인은 눈시울이 뜨거워났습니다. [5a: 41]

- “아이참 곤해요. 며칠이나 바로 자질 못했어요. 형님, 이젠 남새농사를 전처럼 아글타글하잖고도 짓게 됐어요. 이 약을 뿌리면 풀이 다 죽는대요. 기움은 안 매도 된대요...”

토끼가 약병 하나를 내밀었습니다. 그 약병을 본 노루는 불시에 머리가 화끈 뜨거워났습니다. [6b: 91]

- “내 보기엔 망태기야!”

아버지는 이렇게 혹독한 평가를 내리고는 시를 식탁우에 훌 던지셨다.

나는 눈곱이 촉촉히 적어났다. 머리가 뻥해나며 쳐들기조차 어려웠다. [5b: 12]

- 밤을 꽤면서 공부를 하였더니 기분이 침울하고 머리가 뻥해나고 입맛이 떨어졌다. [4b: 25]

- 한번은 그와 친구가 함께 황산의 천도봉에 오르게 되었습니다. 천도봉은 황산에서 제일 높은 봉우리입니다. 산으로 오르내리는 길은 매우 가파로와 보기만 해도 무서워합니다. [3b: 142]
- 나는 아이를 데리고 상점마다 돌아다니며 파란 고양이와 그려진 놀이감총을 사려고 했다. 그러나 온 시내를 누비고 다녀도 그런 놀이감총은 없었다. 나는 아이의 손을 잡고 미안함을 표시했다. 하지만 나는 가슴이 뿌듯해났다. 한것은 어머니로서 나는 아들에게서 가장 훌륭한 선물을 받았기 때문이었다. [5b: 26]
- 우리는 전등불을 마주하고 보면 눈에 자극을 받게 되고 태양을 보면 눈이 새그러워납니다. [3b: 113]
- 어린 시절에 내가 열매를 실컷 먹었던 일이 생각납니다. 그때 얼마나 많이 먹었던지 이 발이 다 새근새근해나서 두부를 먹기도 힘들었습니다. [4b: 35]
- 천지의 물은 또한 오염이 없기에 한모금 쪽 들이켜보니 배꼽까지 시원해났다. [5a: 117]
- 어느 런휴일날 강이와 철이는 강이 외삼촌과 함께 등산을 하였습니다. 그들은 한 자그마한 산에 올라 주위의 경치를 둘러보았습니다.  
한참 보고나니 강이와 철이는 심심해났습니다. [2b: 121]
- 꽃게대신: (왔다갔다하는 문어장군을 보고 못마땅하다는듯이 흘겨보며) 이봐요, 문어장군. 가만히 좀 계시오. 정신이 다 어찢해나오. [6a: 165]
- 그 애는 동생을 아래 계단에 새워놓고 승용차를 가리키며 말했다.  
“봐, 얼마나 멋지니? 내 말이 거짓말이 아니지? 저 아저씨의 형님이 새해선물로 준거래. 저 아저씨는 한푼도 팔지 않았대! 앞으로 어느날엔가 나도 너에게 저런 승용차를 꼭 선물해줄거야. 그때가 되면 저 창문으로 넌 아름다운 새해선물들을 볼 수 있을거야.”  
나는 눈시울이 축축해났다. [4a: 165]
- 노루는 기분이 상해서 한숨을 후 - 내쉬고는 곡괭이를 휘둘러 행행 두엄을 깎습니다. 얼마 지나지 않아 노루는 몸이 후줄근해났습니다. 그는 땀을 씻으며 고래아래를 내려다보았습니다. [6b: 86]
- 영이는 그제야 온 집 식구들이 이 그림을 좋아하는 까닭을 알게 되었습니다. 흐뭇해난 영이는 손벽을 치며 종알거렸습니다. [1b: 41]